

豊寿園

FRUITFUL TREE

豊かな樹

Autumn 2025

Vol. 68

JAPANESE RED CROSS

SOCIETY FUKUOKA

PREFECTURAL CHAPTER

THE SPECIAL NURSING HOME

HOUJYUEN

TOPICS

AREA INFORMATION

HOUJYUEN×FAMILY

HOUJYUEN'S ALBUM



トピックス
T O P I C S

デイサービスで今年度1回目の運営推進会議を開催しました！

9月に今年度1回目の運営推進会議を開催しました。利用者様のご家族、地域、近隣事業所、行政からの委員にご出席いただき、運営状況や感染症対策、発生した事故内容などについて報告し、様々なご指摘をいただきました。いただいたご指摘を活かして、今後もより良いサービス提供を目指していきます。



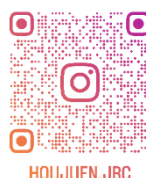
区役所での講習に出講しました！

10月に門司区役所内で開催された健康生活支援講習に荒木生活相談係長が出講しました。「地域における支援活動について」、というテーマで、地域包括ケアや地域での支え合い活動についての講義やリラクゼーションなどの実技を行いました。当日は17名の門司区内の地域の方々にご参加いただきました。



Instagramのフォロワー350名を達成！

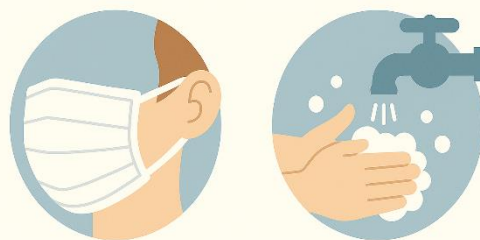
豊寿園のInstagramのフォロワーが350名を超えました。園内での様々な行事の様子や、職員や職場紹介など、担当者がアイデアを出し合いながら投稿しています。未だご覧になっていない方は是非、フォローをよろしくお願いします。



HOUJUN.JRC



感染症予防



新型コロナウイルスが発生しました！

8月27日に2階特養棟内で新型コロナウイルスの陽性者が9名発生しました。9月22日に収束するまでに延べ利用者様17名、職員3名が感染しました。これから感染症の流行期を迎えますが、様々な対策を工夫し、まん延予防に努めてまいります。

地域ぶらり情報



海を見ながら、おいしいパンでも。

九州最大のタコの滑り台や、門司港レトロ観光列車の終点駅『関門海峡めかり駅』がある広場に、カフェ『Pic』はあります。

以前は休憩スペースとして設置されていた昔の客車をリノベーションして2024年5月にopenしました。入り口では、かわいい塩バターパンの看板が出迎えてくれ、店内は外見と違って白を基調にしたさわやかな空間で、窓際のカウンターには焼きたての色々なパンが並んでいます。反対側のカウンターはイートインスペースで、車窓からは関門海峡を見渡す景色を楽しむことができます。色々なパンがありますが、めかりにちなんだ『わかめパン』はプリプリした味付けわかめがたくさん入っていて、とても美味しいです。塩バターパンは、レトロ観光列車の到着時間に合わせて焼きたてが準備されています。パン以外にも、ドリンクや冷たいデザートも豊富にあります。栂島氷菓（柳川市）のアイスキャンディーやジェラートも食べられます。観光列車が到着する時間は混雑しますが、その時間を外すとゆっくり景色を楽しめ、これからの季節はオープンテラスも心地よいと思います。海辺のドライブを兼ねて、ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

『Pic Mekari park』

北九州市門司区門司3491-16

OPEN 10:00~17:00

21:00~26:00

営業日 金・土・日・祝日

TEL 093-861-9936



あとがき

20代の頃、中年太りの人を見て「見苦しい・・・」と思っていました。あれから20数年が経ち、まさか自分の体がそんな姿になるとは、それを「貫禄が出た・・・」と表現するようになるとは想像もしていませんでした。

家族からの「汚い・・・」という、愛ある叱咤激励を受けたことをきっかけに食生活を見直して数カ月、今年の健診で半年前の測定から体重マイナス5キロ、腹囲マイナス5センチの減量に成功しました。長らく目をつぶって通り過ぎていたジムにも通いなおしたので、いつの日か「見られても恥ずかしくない体を手に入れたい」と思い、日々、自分の弁当作りに励んでいます。

豊寿園では、職員一人ひとりが自分自身や組織の課題に日々、取り組んでいます。そういった取り組みはこの「豊かな樹」でご紹介していきます。

今後も、豊寿園に是非、ご期待ください。

広報担当 森 英樹



今回のCOVER

今回表紙を飾ってくれたのは、今年4月に豊寿園に事務課長として異動して来られた長崎麻衣子（ながさきまいこ）さんです。今まで経験のない事業で新たな業務に追われる忙しい日々の中、門司港レトロで観光客に交じっての撮影に協力していただきました。撮影中は展示しているマネキンと間違えられる事件も発生しながらの撮影になりました。

あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、令和6年1月に豊寿園でお看取りさせていただきました入江喜久子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族の了解のもと、園内の記録をもとにご紹介します。



今回ご紹介する入江喜久子様。訃りの目立つ、大きくて明るい声とお人柄の方でした。

家事全般を母親に代わって行っていました。

入江喜久子さんは、門司区恒見町で漁業を営む両親のもとで生まれた五人兄弟の次女です。高等女学校を卒業後、母親が病気がちで寝たきりであつたため、家事全般を母親に代わって行っていました。入江さんは未婚であり、父親が他界した後は独居で生活を続けていました。

平成17年ごろ、近くに住む兄妹が入江さんの言動に変化を感じ、門司労災病院を受診しました。その結果、認知症と思われる診断を受けましたが、特に投薬などは行われず、そのまま在宅

生活を続けていました。平成19年に入ると、近くに住む姉の吉岡さんがご主人と死別したことを契機に、認知症の症状が出現し、不安を強く訴えるようになったため、本宅で吉岡さんと同居することになりました。

平成19年12月に入江さんも精神科医療機関を受診しアルツハイマー型認知症の診断を受けました。姉の吉岡さんは豊寿園のショートステイの利用を始め、徐々に自宅にいる時間が少なくなつていきました。入江さんのケアマネジャーが入江さんにもデイサービスやショートステイの利用を勧めましたが、入江さんはこれを拒否していました。けれども、次第に日常生活での無為・無関心が見られるようになり、在宅生活が不安になつていったため、平成21年10月に精神科医療機関へ入院されました。

先に利用を開始していた吉岡さんと同じフロアで過ごすことになりました。

その後、入院中に病棟内で他者とぶつかり転倒、左大腿骨頸部骨折の診断を受け、総合病院へ転院、手術を受けられました。術後、元の精神科医療機関へ戻られた後、平成22年8月12日に

82歳で豊寿園に入所されました。先に利用を開始していた吉岡さんと同じフロアで過ごすことになりました。病院では術後もお独りで立ち上がり、歩こうとされるため抑制帯が使用されていましたが、入所時は歩行が困難な様子でしたが、お独りで動こうとされるため車いすで抑制帯を使用を準備していましたが、より興奮を助長するため、すぐに中止となりました。

一人で歩こうとされるため転倒の危険性が高い状態でした。

入所してしばらくすると、手引き介助で歩くことが可能になりましたが、一人で歩こうとされるため転倒の危険性が高い状態でした。食事は自力で摂取でき、尿意も保たれていました。歩行状態は徐々に改善し、入所から半年後には独歩が可能なまでに回復しました。「帰って食事の準備をせんといいけん」と言われて落ち着きがなくなる時もありましたが、家事的な作業をお願いすると快く引き受けて積極的に取り組まれていました。周囲の利用者様にも気をまわして回られ、その姿は実

HOUJYUEN × Family

家を守るしつかり者のお姉さんのようでしたが、逆にトラブルになることもありましたが、お姉さんである吉岡さんとは付かず離れずの距離感で過ごされていました。食事の際には二人で分け合う様子も見られましたが、時には二人で口論になることもありましたが、入所から3年が経った頃からは排泄の失敗が増え、風邪をひかれることも増えてきました。特に喉を傷めることが多く、季節の変わり目にはフロアの中で最初に風邪をひかれる方でした。平成26年頃からは転倒が増えてきましたが、幸い骨折には至りませんでした。ご家族は「何があっても仕方ない」と思っています。歩かせてやってください」と理解されています。

―転落が心配されるほどの元気を見せることもありましたが、言葉数は徐々に少なくなっていました―

その後、興奮が強く見られるようになり、おぼつかない足で職員を振り払ってでも歩こうとされるようになってきたため、平成29年5月に元の精神科医療機関へ入院しました。入院中に内服調整を行った結果、強い興奮は見られなくなり、車いすでの拘束がない状況では落ち着かない様子でしたが、

独りで歩こうとする行動は続いていました。約2カ月の入院を経て5月に退院となり、退院日より園でも抑制帯の使用を家族に了解の上で開始しましたが、入院前に比べて落ち着いて過ごせるようになり、ほぼ抑制帯の使用はありませんでした。平成30年になると食事は介助が必要となり、排泄はオムツが必要になり、要介護5となっていました。平成31年頃になると座る際に背もたれが必要となり、ティルト型の車いすを使用するようになりました。それでも車いすやベッド上で体を動かさず、転落が心配されるほどの元気を見せることもありましたが、言葉数は徐々に少なくなっていました。

―「これだけ長くここにお世話になったんです。最期まで見てやってもらえませんか」―

令和5年になるとほぼ発語がなくなり、日常生活全般に全介助が必要な状態になりました。食事の飲み込み時に咽こむことも増え、12月には呼吸時にヒュー、ヒューと喘鳴が聞かれるようになり、食事を摂ることが難しくなっていました。体を動かすとヒュー、ヒューと呼吸が苦しうになり、微熱

が続くようになりました。医療機関を受診したところ、老衰の状態と診断されました。ご家族と今後の対応について話し合い、ご家族はやはりそういう状況になると食べられなくなるんですね。仕方ないです。これだけ長くここにお世話になったんです。今さら病院で何かしてもらおうと思いません。最期まで見てやってもらえませんか」と言われ、同日から看取り対応が始まりました。わずかな栄養補助食品を食べられることもあれば、呼吸が苦しうで食べられないこともありましたが、その後、入所されて14回目のお正月を迎えられました。年が明けると発熱が持続的に見られ、中旬には痰が絡むため、吸引が必要な状況になりました。この間、ご家族は定期的に面会に来られ、居室内でご本人の傍で声をかけておられました。その隣には、吉岡さんも車いすで無言の付き添いをされていました。1月22日からは呼吸が浅くなり、手足の末端が冷たくなってきました。その後、呼吸は不規則になっていきました。1月25日、前日から足底にチアノーゼが出現し、徐々に拡大していききました。呼吸は無呼吸と浅い呼吸を繰り返すようになり、12時を回ったところ、傍らに吉岡さんが見守る中、入江さんはその呼吸を止められました。社交的で人のお世話が好きだった入江さん。生まれ育った恒見訛りの目立つ、大きくて明るい声とお人柄。そして14年を超えてお付き合ひさせていただいた日々を、私たちはずっと忘れないでしよう。

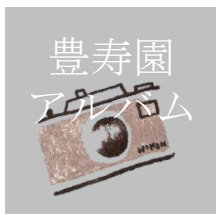
敬老会



10月 敬老会を行いました。感染症の影響で9月から延期となっていました。記念の御年を迎えられた方々をご家族とともにお祝いできました。



豊寿園 アルバム



8月 1階でバーがオープン。ノンアルコールカクテルやカラオケを楽しめる方、スタッフとしてお客の給仕を頑張られる方など様々な形で行事に参加していただきました。



喫茶BAR

七夕まつり



7月 各階で七夕の行事を行いました。1階ではお祭り風にして出店をお楽しみいただき、2階では浴衣を着た職員とともに歌やデザートをお楽しみいただきました。

デイサービス

七夕



7月 飾りつけやゲームで七夕を楽しみました。

収穫



8月 畑で出来たトマトを収穫しました。

おやつ作り



7月 ところてんを使っておやつを作りました。



かき氷



8月 かき氷を作って涼を楽しみました。

厨房イベント



9月 調理師が目の前で熱々のたこ焼きを焼いてくれました。



Autumn 2025

Vol. 68

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJJYUEN×FAMILY

HOJJYUEN'S ALBUM



FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOJJYUEN